



[目次]

公 告

第6回（2008年度）「日本生態学会賞」候補者推薦のお願い

第12回（2008年度）「日本生態学会宮地賞」候補者募集

第1回（2008年度）「日本生態学会大島賞」候補者募集

日本生態学会第55回大会案内..... 1

記 事

I. 学会賞各賞受賞者の決定 5

II. 書評依頼図書..... 5

III. 寄贈図書..... 5

IV. 後援・協賛..... 5

V. 交換雑誌目録..... 5

お知らせ

1. 公募..... 6

2. 第10回マリンバイオテクノロジー学会大会開催のお知らせ 6

3. 訂正..... 7

公募カレンダー..... 8

京都大学生態学研究センターニュース..... 9

公 告

第 6 回（2008 年度）「日本生態学会賞」

候補者推薦のお願い

「日本生態学会賞」は、顕著な研究業績により生態学の深化や新たな研究展開に指導的役割を果たした本学会員に対して授与される日本生態学会の最も権威ある賞です。細則にありますように、受賞者は会員から推薦された候補者の中から選考され、大会時において表彰されます。

このたび、第 6 回の授賞に先立ち、会員の皆様に受賞候補者の推薦をお願いいたしたく存じます。この賞の趣旨を充分ご理解のうえ、下記の要領で奮ってご推薦頂きますようお願い申し上げます。

2007 年 4 月 1 日
日本生態学会会長
菊澤 喜八郎

記

1. 受賞候補者の条件：本学会員
2. 書 式：本誌綴じ込みの推薦用紙（別紙添付可）
3. 送付先：〒 603-8148 京都市北区小山西花池町 1 - 8
日本生態学会事務局気付
日本生態学会賞選考委員会委員長
4. 締め切り日：2007 年 8 月 15 日（必着）

以 上

日本生態学会賞細則

- 第1条 日本生態学会賞は、本学会員で、顕著な研究業績により生態学の深化や新たな研究展開に指導的役割を果たし、本学会員により推薦された者の中から、以下に述べる選考を経て選ばれた者に授ける。なお、受賞は毎年原則として1名とする。
- 第2条 日本生態学会賞候補者を選考するため、日本生態学会賞候補者選考委員会（以下委員会）を設ける。
- 第3条 委員会の委員は全国委員の推薦により9名を選出するが、生態学の各分野に偏りの無いように配慮する。委員長は委員の互選により毎年定める。委員の任期は3年とし、毎年3名を改選する。ただし任期満了後2年間は再任されない。
- 第4条 推薦者は、推薦理由を添えて候補者を推薦するとともに、委員会の求めに応じて必要な資料を提出しなければならない。
- 第5条 委員会は推薦理由をもとに受賞候補者を絞り、推薦者が提出する資料にもとづいて若干名の受賞候補者を選び、選定理由を付けて会長に報告する。なお、受賞候補者が無い場合も、その旨を会長に報告する。選考にあたっては、原著論文業績の他に啓蒙的役割を果たした著書類及びそれらの国内外の波及効果に留意する。
- 第6条 選考委員が被推薦者となった場合で、選考の最終段階に候補として残った場合には、選考委員会からはずれるものとする。
- 第7条 会長は委員会が選定した候補者について、その賛否を全国委員会に諮り、有効投票のうち3分の2以上の賛成がある場合、これを受賞者として決定し、直ちに本人に通知をする。また、受賞候補者が無い場合には、全国委員会の了承を受けて、受賞者が無いことを会員に公表する。
- 第8条 受賞者の決定は、受賞式が行われる3ヶ月前までに行う。
- 第9条 授賞式は大会において行い、受賞者には賞状及び記念品を贈呈する。
- 第10条 受賞者は、原則として、その授賞式が行われる大会において記念講演し、その内容を本学会の学会誌に総説として投稿する。
- 第11条 この細則の変更には全国委員会の3分の2以上の同意を要する。

付則 この細則は2007年3月22日から適用する。

(2007年3月21日改訂)

第6回（2008年度）「日本生態学会賞」 受賞候補者推薦用紙

日本生態学会賞選考委員会委員長殿

下記の者を、日本生態学会賞に推薦いたします。

2007年 月 日

推薦者氏名： 印

連絡先：

切
り
取
り
線

記

1. 受賞候補者

氏名：

生年月日：

所属：

連絡先：

2. 推薦理由

3. 主要な業績

公 告

第 12 回（2008 年度）「日本生態学会宮地賞」 候補者募集

「日本生態学会宮地賞」は生態学に大きな貢献をしている本学会の若手会員に対して、その研究業績を表彰することにより、わが国の生態学の一層の活性化を図ることを目的とするものです。

会員の自薦による応募者、もしくは会員から推薦された者の中から原則として 3 名の受賞者を選考し、「日本生態学会宮地基金」から各々 10 万円の賞金が贈呈されます。

受賞候補者の募集を下記の要領で行いますので、この賞の趣旨を充分ご理解のうえ、奮ってご応募、ご推薦頂きますようお願い申し上げます。

2007 年 4 月 1 日
日本生態学会会長
菊澤 喜八郎

記

1. 受賞候補者の条件：本学会の若手会員
2. 書 式：本誌綴じ込みの応募（推薦）用紙（別紙添付可）
3. 送付先：〒 603-8148 京都市北区小山西花池町 1 - 8
日本生態学会事務局気付
日本生態学会宮地賞選考委員会委員長
4. 締め切り日：2007 年 8 月 15 日（必着）

以 上

日本生態学会宮地賞細則

- 第1条 日本生態学会宮地賞（以下宮地賞という）は、生態学の優れた業績を挙げた本学会の若手会員で、自薦による応募者もしくは本学会員により推薦された者の中から、以下に述べる選考を経て選ばれた者に授ける。なお、授賞は毎年原則として3名とする。
- 第2条 宮地賞受賞候補者を選考するため、宮地賞受賞候補者選考委員会（以下委員会という）を設ける。
- 第3条 委員会の委員は日本生態学会賞候補者選考委員が兼ねる。
- 第4条 委員会は若干名の受賞候補者を選び、選定理由を付けて会長に報告する。なお、受賞候補者が無い場合も、その旨を会長に報告する。選考にあたっては、日本生態学会の英文誌または和文誌への本人の掲載論文の有無、及び会員歴にも留意する。
- 第5条 選考委員が被推薦者となった場合で、選考の最終段階に候補として残った場合には、選考委員会からはずれるものとする。
- 第6条 会長は委員会が選定した候補者について、その賛否を全国委員会に諮り、有効投票のうち3分の2以上の賛成がある場合、これを受賞者として決定し、直ちに本人に通知をする。また、受賞候補者が無い場合には、全国委員会の了承を受けて、受賞者が無いことを会員に公表する。
- 第7条 受賞者の決定は11月中旬までに行う。
- 第8条 授賞式は大会において行い、受賞者には賞状および宮地基金より賞金10万円を贈呈する。
- 第9条 受賞者は受賞の対象となった研究業績について、原則として、その授賞式が行われる大会において講演し、その内容も含めた総説を本学会の学会誌に投稿する。
- 第10条 この細則の変更には全国委員会の3分の2以上の同意を要する。

(1998年3月26日改訂)

(2000年3月10日改訂)

(2002年3月28日改訂)

(2006年3月24日改訂)

付則 この細則は2007年3月22日から適用する。

(2007年3月21日改訂)

第12回（2008年度）「日本生態学会宮地賞」 受賞候補者応募（推薦）用紙

日本生態学会宮地賞選考委員会委員長殿

下記のごとく、日本生態学会宮地賞に応募（推薦）いたします。

2007年 月 日

応募者（または推薦者）氏名： 印

連絡先：

記

1. 受賞候補者

氏名： 生年月日：

所属：

連絡先：

2. 応募（推薦）理由

3. 受賞対象となる研究内容（なるべく具体的にお書き下さい。書ききれない場合は別紙添付可）

4. 業績目録（A4版の別紙に、論文業績、学会等での研究発表などを重要と思われるものより順にお書き下さい）

5. 主要論文の別刷（5編以内を添付願います）

6. 会員歴（学会入会年、学会での研究発表歴など）

切
り
取
り
線

公 告

第 1 回（2008 年度）「日本生態学会大島賞」 候補者募集

「日本生態学会大島賞」は例えば野外における生態学的データの収集を長期間継続しておこなうことなどにより生態学の発展に寄与している本学会の中堅会員を主な対象とした賞です。

会員の自薦による応募者、もしくは会員から推薦された者の中から原則として2名の受賞者を選考し、「日本生態学会大島基金」から各々10万円の賞金が贈呈されます。

受賞候補者の募集を下記の要領で行いますので、この賞の趣旨を充分ご理解のうえ、奮ってご応募、ご推薦頂きますようお願い申し上げます。

2007年4月1日
日本生態学会会長
菊澤 喜八郎

記

1. 受賞候補者の条件：本学会の中堅会員
2. 書 式：本誌綴じ込みの応募（推薦）用紙（別紙添付可）
3. 送付先：〒603-8148 京都市北区小山西花池町1-8
日本生態学会事務局気付
日本生態学会大島賞選考委員会委員長
4. 締め切り日：2007年8月15日（必着）

以 上

日本生態学会大島賞細則

- 第1条 日本生態学会大島賞（以下大島賞という）は、例えば野外における生態学的データの収集を長期間継続しておこなうことなどにより生態学の発展に寄与している本学会の中堅会員を主な対象とし、自薦による応募者もしくは本学会員により推薦された者の中から、以下に述べる選考を経て選ばれた者に授ける。なお、授賞は毎年原則として2名とする。
- 第2条 大島賞受賞候補者を選考するため、大島賞受賞候補者選考委員会（以下委員会という）を設ける。
- 第3条 委員会の委員は日本生態学会賞候補者選考委員が兼ねる。
- 第4条 委員会は若干名の受賞候補者を選び、選定理由を付けて会長に報告する。なお、受賞候補者が無い場合も、その旨を会長に報告する。選考にあたっては研究の継続期間や会員歴にも留意する。
- 第5条 選考委員が被推薦者となり選考の最終段階まで候補として残った場合には、選考委員会からはずれるものとする。
- 第6条 会長は委員会が選定した候補者について、その賛否を全国委員会に諮り、有効投票のうち3分の2以上の賛成がある場合、これを受賞者として決定し、直ちに本人に通知をする。また、受賞候補者が無い場合には、全国委員会の了承を受けて、受賞者が無いことを会員に公表する。
- 第7条 受賞者の決定は11月中旬までに行う。
- 第8条 授賞式は大会において行い、受賞者には賞状および大島基金より賞金10万円を贈呈する。
- 第9条 受賞者は受賞の対象となった研究課題について、原則として、その授賞式が行われる大会において講演し、その内容も含めた総説・解説等を本学会の学会誌に投稿する。
- 第10条 この細則の変更には全国委員会の3分の2以上の同意を要する。

付則 この細則は2007年3月22日から適用する。

(2007年3月21日制定)

第1回（2008年度）「日本生態学会大島賞」 受賞候補者応募（推薦）用紙

日本生態学会大島賞選考委員会委員長殿

下記のごとく、日本生態学会宮地賞に応募（推薦）いたします。

2007年 月 日

応募者（または推薦者）氏名： 印

連絡先：

記

1. 受賞候補者

氏名： 生年月日：

所属：

連絡先：

2. 応募（推薦）理由

3. 受賞対象となる研究内容（なるべく具体的にお書き下さい。書ききれない場合は別紙添付可）

4. 業績目録（A4版の別紙に、論文業績、学会等での研究発表などを重要と思われるものより順にお書き下さい）

5. 主要論文の別刷（5編以内を添付願います）

6. 会員歴（学会入会年、学会での研究発表歴など）

切
り
取
り
線

日本生態学会第 55 回大会案内

日本生態学会第 55 回大会（公式略称 ESJ55）は、大会実行委員会および大会企画委員会により、下記の要領で開催されます。

連絡先

〒 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学理学部生物学教室内
日本生態学会第 55 回大会（ESJ55）実行委員会
TEL: 092-642-2624 FAX: 092-642-2645

担当：巖佐 庸（大会会長）、粕谷英一（大会実行委員長）

電子メール taikai@mail.esj.ne.jp

大会公式ホームページ <http://www.esj.ne.jp/meeting/55/>

本大会に関する問い合わせは、大会公式ホームページにある問い合わせページからお願いします。大会に関する最新情報は、ホームページで確認ください。

大会の概要

本大会では、シンポジウム、フォーラム、一般講演（口頭・ポスター）、企画集会、自由集会、総会、受賞講演会、懇親会を行います。シンポジウムの開催形式は従来とは大きく変わっています。また、従来の自由集会を発展させた形式の「企画集会」を新設します。詳しくは、「シンポジウムと自由集会の開催形式の変更」をご覧ください。

本大会は、日本生態学会員ではない方も参加できます。ただし、講演やシンポジウム等の企画提案をするには、日本生態学会員になっていただく必要があります（入会手続きについては <http://www.esj.ne.jp/esj/> を参照してください）。

会場・日程

本大会は福岡国際会議場を主会場として 2008 年 3 月 14 日（金）から 18 日（火）に開かれます。日程等の詳細は次号のニュースレターでお知らせします。

提案、申し込みなどの締め切り

各種申し込みの締め切りは以下の通りです。シンポジウム企画提案は 2007 年 5 月 28 日（月）から受け付けます。他の申し込み開始は、締め切りの 1 ヶ月前程度から受付ける予定です。

シンポジウム企画提案	2007 年 7 月 13 日（金） 17:00
企画集会、自由集会申し込み	2007 年 10 月 26 日（金） 17:00
一般講演申し込み	2007 年 11 月 16 日（金） 17:00
講演要旨登録	2008 年 1 月 8 日（火） 17:00
プレゼンファイル登録	2008 年 3 月 6 日（木） 17:00

シンポジウムと自由集会の開催形式の変更

第 55 回大会では、シンポジウムや自由集会の開催形式を大きく変更します。

1. これまでの企画シンポジウムと公募シンポジウムを統合し、「大会シンポジウム」に統一します。
2. 大会シンポジウムでは、**企画案**を会員から公募し、提案された案を大会企画委員会が検討します。
3. 採択された大会シンポジウムには、大会企画委員会が**コーディネータ**を出して支援します。
4. 大会全体をよりバランスの取れたプログラム編成にするために、公式プログラムとして新しい形式の自由集会 = 「**企画集会**」を新設します。

シンポジウム企画案の公募

大会シンポジウムの**企画案**を募集します。

- ・企画案は講演者が決まっていない Seeds 段階のものでもかまいません。
- ・海外研究者の招聘のリクエストも歓迎します。招聘費用を大会費用からまかなうことが出来る場合があります。
- ・若手研究者からも意欲的な提案を期待しています。
- ・大会企画委員会は応募された企画案を検討し、大会全体のバランスに配慮して、採択する提案を決定します。
- ・採択された企画の提案者にはオーガナイザーとしての参加を要請します。
- ・大会企画委員会はコーディネータを出して各シンポジウムの企画運営を支援し、シンポジウム間の調整を行います。
- ・企画案が多数寄せられ会場のキャパシティを超えてしまう場合や、内容的にシンポジウムとしての開催が難しいと判断される企画がある場合は、企画集会や自由集会として再提案していただくことがあります。
- ・開催形式の変更に伴い、シンポジウムの企画提案の締切は従来より大幅に早まります。
- ・大会シンポジウムの企画は、2007年7月13日（金）17:00までに大会公式ホームページからご提案下さい。

企画集会の新設と自由集会

自由集会はこれまで、自由な形式と闊達な雰囲気により新たな研究分野の創出に貢献し、会員の多様な興味に応えてきました。しかし、従来の自由集会は、大会の公式プログラムには含まれず、講演内容は要旨集に掲載されていませんでした。**福岡大会からはできるだけ多くの集会を公式プログラムとして開催したい**と考え、新たに「**企画集会**」を設けることにしました。従来と同様の自由集会も受け付けますので、趣旨をご理解のうえ、奮ってお申し込みください。

企画集会と自由集会は一括して募集され、受付後に企画者の希望を考慮し、大会企画委員会によって企画集会と自由集会に割り振られます。

企画集会

- ・企画集会には、大会参加費を支払った人に限って参加できます。
- ・企画集会の個別の講演の要旨は、講演要旨集に掲載されます。全体の趣旨説明と概要もプログラムと講演要旨集に掲載されます。
- ・企画集会の他の要件は、これまでの自由集会と同じです。一般講演、シンポジウムなどとの**重複発表は認められませんが**、原則として日程の調整は行いません。

自由集会

- ・自由集会では、これまでと同様、全体の趣旨説明と概要のみがプログラムと講演要旨集に掲載され、個別の講演の要旨は掲載されません。
- ・一般講演、シンポジウムなどとの**重複発表は認められませんが**、原則として日程の調整は行いません。

企画集会、自由集会ともに、企画者はC会員を含む日本生態学会会員に限ります。企画集会または自由集会の開催を希望される方は、2007年10月26日（金）17:00までに大会公式ホームページからお申し込みください。

いずれの集会についても、大会企画委員会は内容に関与しませんが、概要などに特定の個人を傷つける内容を含むと判断されるものについては、その限りではありません。企画集会、自由集会とも開催時間は2時間の予定です。

企画集会、および自由集会には、3月14日（金）、15日（土）、17日（月）、18日（火）を充てる予定です。なお、自由集会の時間枠は、大会初日の各種委員会や全国委員会と並行した時間帯や、大会最終日に設定される可能性が高くなります。

提案された企画集会・自由集会の数が会場の収容可能数を上まわる場合には、同一会員が重複して複数の集会

の企画者となっている提案からご遠慮いただきます。次に、大会シンポジウム企画者による提案にご遠慮いただきます。それでも数が多い場合には、自由集会は抽選によって採否を決定します。

開催の可否については、11月23日（金）までにメールでご連絡します。

フォーラム

学会内の各種委員会等によって企画されるフォーラムを数件開催する予定です。フォーラムとは、各種委員会から提案され、生態学会が取り組んでいる生態学に関連する課題について広く会員の意見を募り、会員相互の情報共有を促すことや、広範な議論により学会内の合意を形成することを目指すものです。なお、フォーラムの企画やフォーラムでの話題提供は、重複講演制限の対象となりません。

一般講演

一般講演には口頭発表とポスター発表があります。申し込み時に希望をお聞きますが、会場の都合でご希望に沿えない場合もあります。

口頭発表では、英語での発表・討論を経験する機会を提供し、日本語を解さない参加者との交流を図るために、英語での発表を歓迎します。ただし、英語での発表の申し込み数によっては、分野にこだわらずに英語での発表を集めたセッションに回っていただく場合があります。

発表内容に応じて会場・時間の割り振りやポスター賞のグループ分けを行うため、発表申し込み時に適切な分野を以下のうちから3つまで選んでいただきます。**分野分けについて追加の要望が多数ある分野は、企画委員会で検討しますので、ご要望があればお寄せください。**

群落／植物個体群／植物生理生態／植物繁殖／植物生活史／送粉／種子散布／
菌類／微生物／景観生態／遷移・更新／フェノロジー／動物と植物の相互関係／
進化／種多様性／数理／動物群集／動物繁殖／動物個体群／動物生活史／行動／
社会生態／分子／古生態／保全／生態系管理／外来種／都市／物質生産／物質循環

注意：

- ・一般講演の演者（登壇者及び主たる説明者）は、日本生態学会 A 会員と B 会員に限ります（共同発表者は会員である必要はありません）。
- ・一人で二つ以上の講演の演者になることはできません（共同発表者になることは差し支えありません）。
- ・さらに、シンポジウムの企画者・講演者は一般講演は行えません（口頭・ポスターとも）。これらの制限は、いずれも限られた場所と時間を分け合って使うための措置ですので、ご了承ください。

ポスター発表の方法

ポスターボードは縦長のものを使用する予定です。

ポスター賞

若手研究者を奨励するために、優秀なポスター発表に賞を贈ります。ポスター賞の運営、審査は松山大会に準じて行う予定です。詳細は大会プログラムに掲載しますので、ポスターを準備するときの参考にしてください。

諸経費と送金方法

大会参加費、懇親会費などは松山大会に準じた設定とする見込みです。諸経費は、次号のニューズレターに綴じ込んだ郵便振替払込用紙を使って郵便局から振り込んでいただくことになります。

エコカップ 2008

大会サテライト企画として、親善フットサル大会 エコカップ 2008 が行われます。主催はエコカップ 2008 実行委員会です。詳細は追ってホームページでお知らせします。

ご意見

大会企画委員会では、大会運営についてのご意見を随時受け付けています。大会公式ホームページにある問い合わせページからお寄せください。

記 事

I. 学会賞各賞受賞者の決定

学会賞各賞の受賞者は下記のように決定しました。

1. 第5回日本生態学会賞
山村則男(京大大学生態学研究センター 教授)
2. 第5回日本生態学会功労賞
只木良也(プレック研究所顧問(生態研究センター))
辻井達一(北海道環境財団 理事長)
3. 第11回日本生態学会宮地賞
大園享司(京都大学大学院農学研究科)
佐竹暁子(Dept. of Ecology and Evolutionary Biology,
Princeton University)

II. 書評依頼図書(2006年9月~2007年4月)

現在、下記の図書が書評依頼図書として学会事務局に届けられています。書評の執筆を希望される方には該当図書を差し上げます。ハガキ又はEメールで、ご所属・氏名・住所・書名を学会事務局(office@mail.esj.ne.jp)までお知らせ下さい。なお、書評は1年以内に掲載されるようご準備下さい。

1. 遠藤秀紀著「遺体科学の挑戦」(2006) 210pp. 東京大学出版会 ISBN:4-13-063328-7
2. 田中章著「HEP入門」(2006) 270pp. 朝倉書店 ISBN:4-254-18026-8
3. 日本学術協力財団「学術会議叢書12 どこまで進んだ男女共同参画」(2006) 250pp. (財)日本学術協力財団 ISBN:4-939091-21-X
4. 日本学術協力財団「学術会議叢書13 科学のミスコンダクト」(2006) 236pp. (財)日本学術協力財団
5. 金子之史著「ネズミの分類学 生物地理学の視点」(2006) 302pp. 東京大学出版会 ISBN:4-13-060188-1
6. 太田次郎監訳 藪忠綱訳「【図説】科学の百科事典2 環境と生態」(2007) 176pp. 朝倉書店 ISBN:978-4-254-10622-0
7. 鷺谷いづみ・鬼頭秀一編「自然再生のための 生物多様性モニタリング」(2007) 236pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-066157-7
8. R. Frankham・J. D. Ballou・D. A. Briscoe 著 西田睦監訳「保全遺伝学入門」(2007) 752pp. 文一総合出版 ISBN:978-4-8229-1067-2
9. 種生物学会編 浅井元朗・芝池博幸責任編集「農業と雑草の生態学 侵入植物から遺伝子組換え作物まで」(2007) 340pp. 文一総合出版 ISBN:978-4-8299-1068-9
10. 山岸哲監修(財)山階鳥類研究所編「保全鳥類学」(2007) 394pp. 京都大学学術出版会 ISBN:978-4-87698-703-0

III. 寄贈図書

1. 「財団法人下中記念財団 2006年報」(2006) 80pp. (財)下中記念財団
2. 「日本学術会議声明 科学者の行動規範について」(2006) 88pp. (財)日本学術協力財団

3. 「うみうし通信 No.53」(2006) 12pp. (財)推薦無脊椎動物研究所
4. 「果樹研究所ニュース17号」(2006) 8pp. (独)農業・食品産業技術総合研究機構
5. 「DNAマーカーによる果樹・果実の品種判別」(2006) 7pp. (独)農業・食品産業技術総合研究機構
6. 「第56回東レ科学振興会科学講演会記録 免疫の戦略 ―がん・自己免疫病に挑む―」(2006) 36pp. (財)東レ科学振興会
7. 「こうえいフォーラム」(2007) 102pp. 日本工営株式会社技術委員会
8. 「多摩川」(2007) 22pp. (財)とうきゅう環境浄化財団
9. 「国土技術政策総合研究所資料No.355」(2006) 210pp. 国土交通省国土技術政策総合研究所
10. 「みどりいし 18」(2007) 42pp. (財)熱帯海洋生態学研究振興財団
11. 「うみうし通信 No.54」(2007) 12pp. (財)水産無脊椎動物研究所
12. 「SESSILE ORGANISMS 第24巻 第1号」(2007) 66pp. 日本付着生物学会

IV. 後援・協賛

日本生態学会では、下記のシンポジウム・セミナーを後援・協賛しました。

1. 緊急クマシンポジウム
「人里に出没したクマはどうするのか? 人里にクマを出没させないための方策は?」
主催: 日本クマネットワーク、岐阜大学 21世紀COEプログラム、東京大学 21世紀COEプログラム
日時: 2月11日(日) 13:00~17:30
場所: 東京大学農学部弥生講堂
2. 特別シンポジウム「生態リスクマネジメントのこれから」
~ 21世紀COEプログラム「生物・生態環境リスクマネジメント」の成果と今後~
主催: 国立大学法人横浜国立大学大学院環境情報研究院シンポジウム実行委員会
日時: 平成19年4月21日(土)
開催場所: 横浜国立大学教育文化ホール
3. 京都学園バイオ環境賞への後援
主催: 京都学園大学
対象:
①バイオと環境などに関する優れた研究や実践活動を行っている高等学校の理科クラブなどの団体
②バイオと環境などに関する優れた研究活動を行っている高校生個人、あるいはバイオと環境に関する優れた論文を著した高校生個人

V. 交換雑誌目録(2007年3月現在)

1. Acta Zoologica Fennica
2. adansonia

3. Annales Botanici Fennici
4. Archiv fur Molluskenkunde
5. Biodiversity Science
6. Biotropia
7. Botanica Helvetica
8. Chinese Journal of Applied Ecology
9. Chinese Journal of Ecology
10. Entmologische Berichten
11. EXPLORATIONS
12. Folia Geobotanica
13. Journal of Plant Ecology
14. Journal of Taiwan Fisheries Research
15. Korean Journal of Environment and Ecology
16. Memoranda
17. MICRONESICA
18. ORSIS
19. Polish Journal of Ecology
20. Proceeding of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia
21. Reinwardtia
22. Scientia Marina
23. Senckenbergiana Biologica
24. Sichuan Alpine Ecology Study
25. SPIXIANA
26. Svensk Botanisk Tidskrift
27. Systematics and biodiversity
28. The BIOLOGICAL BULLETIN
29. The Botanical Review
30. The Bulletin/British Ecological Society
31. Tropical Ecology
32. Vie et Milieu
33. ЭКОЛОГИЯ
34. Хабарлары Цэвесмця

ている高校生

Ⅱ種：山岳地域のフィールド・ワークに基づいてまとめられた大学等の(過去3年間に提出された)卒業論文。

- ②毎年度Ⅰ種：1グループ、Ⅱ種：1名とします。それぞれ賞状および副賞10万円。
- ③2007年7月31日
- ④信州大学山岳科学総合研究所運営支援チーム
〒390-8621 松本市旭3-1-1
電話：0263-37-2432 FAX：0263-37-2438
e-mail：suims@shinshu-u.ac.jp

(3) 東レ科学技術賞

- ①当学会に関する分野で
 - 1) 学術上の業績が顕著なもの
 - 2) 学術上重要な発見をしたもの
 - 3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
 - 4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの
- ②2件前後。1件につき賞状、金メダルおよび賞金500万円
- ③平成19年10月10日(水)東レ科学振興会に必着
- ④生態学会事務局

(4) 東レ科学技術研究助成

- ①当学会に関する分野で国内の研究機関において自らのアイデアで萌芽的基礎研究に従事しており、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者(原則として推薦時45歳以下)
- ②総額1億3千万円。1件3千万円程度まで。10件程度。
- ③平成19年10月10日(水)東レ科学振興会に必着
- ④日本生態学会事務局

お 知 ら せ

1. 公募

日本生態学会に寄せられた公募について、①対象、②助成又は賞などの内容、③応募締め切り、④申し込み・問い合わせ先をお知らせします。

(1) 2007年度「信州フィールド科学賞」

- ①山岳地域におけるフィールド・ワークを基本として研究している若手研究者(2007年度末で35才以下)。研究対象や分野は問いません。
- ②毎年1名。賞状及び副賞20万円
- ③2007年7月31日
- ④信州大学山岳科学総合研究所運営支援チーム
〒390-8621 松本市旭3-1-1
電話：0263-37-2432 FAX：0263-37-2438
e-mail：suims@shinshu-u.ac.jp

(2) 2007年度「信州フィールド科学賞奨励賞」

- ①Ⅰ種：山岳地域においてグループで調査活動を行っ

2. 第10回マリンバイオテクノロジー学会大会開催のお知らせ

第10回マリンバイオテクノロジー学会大会を下記の要領で開催予定としております。

- 大会日程 平成19年5月26日(土)～27日(日)
- 会 場 山形大学小白川キャンパス教養教育棟
- 大会役員 大会会長 森澤正昭 山形大学理学部教授
大会副会長 原慶明 山形大学理学部教授
実行委員長 木島明博 東北大学大学院農学研究科教授
- 大会事務局 〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
山形大学理学部生物学科内
第10回マリンバイオテクノロジー学会大会実行委員会
TEL/FAX 023-628-4612、4613/023-628-4625
Mail marbiotech@sbiol.kj.yamagata-u.ac.jp
- 懇親会 開催日 5月26日(土)18:00～20:00
場所 山形大学小白川キャンパス厚生会館

大会の内容

1. 一般講演（口頭発表、ポスター発表）、2. シンポジウム（一般）、3. 懇親会

※シンポジウムの企画を公募いたします。シンポジウムの企画をご希望の方は大会事務局までご連絡下さい。

発表形式

1. 口頭発表：一般講演は質疑含み15分、液晶プロジェクター使用
2. ポスター発表：学生を対象とした優秀ポスターの表彰を予定

一般講演のセッション

1. 微生物、2. 微細藻類、3. 海藻・付着生物、4. 魚介類、5. 天然物化学・未利用資源、6. バイオミネラリゼーション、7. マリンゲノム、8. 環境・環境適応、9. その他

発表申込の締め切り 平成19年3月16日（金）必着

発表要旨の締め切り 平成19年4月20日（金）必着

講演申し込み方法

発表希望の方は書式にしたがって、申込者氏名・所属および連絡先、発表希望セッション、希望発表形式、

発表者氏名・所属略記（連名の方全員）、演題を明記の上、申し込んで下さい。申し込みはメールまたは郵送で受け付けます。詳細は大会ホームページでご確認下さい。

参加登録方法

参加登録希望の方は書式にしたがって、申込者氏名・所属および連絡先を明記の上、メールまたは郵送で申し込んで下さい。詳細は大会ホームページでご確認下さい。

第10回大会ホームページアドレス：

<http://www-sbiol.kj.yamagata-u.ac.jp/~jsmb/mbt2007/>

学会ホームページ：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmb/>

3. 訂正

ニュースレター No.11 4pp 北海道地区会報告に以下の追加があります。

2006年度、北海道地区大会において小林誠（北海道大学大学院 環境科学院 生物圏科学専攻植物生態学コース）「最北限のブナ林における優占樹種ブナとミズナラの更新動態」も若手発表の部・奨励賞に選ばれた。

・公募カレンダー

例年学会事務局に送付される学術賞、研究助成、共同研究などの公募を昨年の締切日順にまとめました。
詳細については、学会事務局あるいは各団体にお問い合わせ下さい。

名称又は種類	授賞又は助成団体	2006年締切 (*印:2007年締切)
研究助成	財団法人 とうきゅう環境浄化財団 http://home.q07.itscom.net/tokyuenv	1月15日*
自然科学研究助成	財団法人 三菱財団 http://www.mitsubishi-zaidan.jp	2月2日*
日本国際賞	財団法人 国際科学技術財団 http://www.jsps.go.jp/j-biom.htm	5月19日
環境問題研究助成	財団法人 日本生命財団 http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp	4月16日*
海外渡航費補助	社団法人 日本植物学会 http://bsi.or.jp/wakate_kagai.pdf	4月28日
研究助成	公益信託ミキモト海洋生態研究助成基金 http://www.jwrc.or.jp/	5月11日*
研究助成	公益信託四方記念地球環境保全研究助成基金 http://www.jwrc.or.jp/	5月11日*
研究助成	公益信託増進会自然環境保全研究活動助成基金 http://www.jwrc.or.jp/	5月11日*
国際生物学賞	日本学術振興会国際生物学賞委員会 http://www.jsps.go.jp/j-biom.htm	5月18日*
研究助成	財団法人 トヨタ財団 http://www.toyotafound.or.jp/	5月20日
研究助成	公益信託富士フィルム・グリーンファンド http://www.jwrc.or.jp/	5月21日*
日本学術振興会賞	独立行政法人 日本学術振興会 http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/index.html	6月9日
研究調査助成	財団法人 日本証券奨学財団 http://www.jssf.or.jp	8月11日
学術研究助成	藤原ナチュラルヒストリー振興財団	9月1日
生態学琵琶湖賞	滋賀県 http://www.ilec.or.jp/prize/	9月15日
沖縄研究奨励賞	沖縄協会 http://homepage3.nifty.com/okinawakyoukai/	9月30日
木原記念財団学術賞	木原記念横浜生命科学振興財団 http://www.kihara.or.jp	9月30日
科学技術賞	東レ科学振興会 http://www.toray.co.jp/tsf/index.html	10月10日*
研究助成	東レ科学振興会 http://www.toray.co.jp/tsf/index.html	10月10日*
日産科学賞	財団法人 日産科学振興財団 http://www.nissan-zaidan.or.jp	10月13日
笹川科学研究助成	財団法人 日本科学協会 http://www.jss.or.jp	10月13日
研究助成	財団法人 鹿島学術振興財団	11月20日
尾瀬賞	財団法人 尾瀬保護財団 http://www.oze-fnd.or.jp	10月31日
研究助成	財団法人 下中記念財団 http://www.shimonaka.or.jp/	12月7日*
助成事業	財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 http://www.expo90.jp/	11月27日



京都大学
生態学研究センター
*Center for Ecological Research
Kyoto University*

京都大学生態学研究センター
〒 520-2113 滋賀県大津市平野 2 丁目 509-3
Tel : (077) 549-8200 (代表), Fax : (077) 549-8201
センター長 大串 隆之

Center for Ecological Research, Kyoto University
2-509-3 Hirano, Otsu, Shiga,
520-2113, Japan
Home page : <http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp>

センターの動向

- 1) 2006 年度外国人研究員の楊 燕輝氏 (COE 研究員) が、3 月 31 日で任期を終え帰国されます。
- 2) 2006 年度外国人研究員の謝 志豪氏 (客員研究員) が、3 月 31 日で任期を終え帰国されます。
- 3) 2006 年度日本学術振興会外国人特別研究員の Pradeep Ram Angia Sriram 氏が、10 月 31 日で任期を終え帰国されました。
- 4) 2006 年度日本学術振興会外国人特別研究員の金 喆九氏が、韓国の国立環境科学院に就職のため 2 月 13 日に帰国されました。
- 5) 2007 年度外国人研究員として 4 月 1 日から 6 月 30 日までミネソタ大学ダールズ校 (アメリカ合衆国) より Timothy Paul Craig 氏 (客員教授) が滞在予定です。
- 6) COE 研究員の片山 昇氏、和穎朗太氏、横川太一氏は、2007 年 3 月 31 日で任期を終えられます。

お知らせ

生態学研究センターは、2007 年 (平成 19 年) 度の共同利用事業の一環として、研究会や野外実習などの公募を行っています。詳しくは当センターのホームページ (<http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/activities/cooperative.html>) をご参照ください。なお、公募締切は 2006 年 4 月 6 日です。

◆会費

会費は前納制で、学会の会計年度は1月から12月までです。
新年度の会費は12月に請求をします。会費未納者に対しては6月、9月に再請求します。
下記会費（地区会費）を次の口座にお振込ください。

郵便振替口座番号 01070-6-19256 口座名：日本生態学会

退会する際は前年度内に退会届を事務局まで提出してください。
会費滞納2年で会誌の発送停止となり、3年で退会処分となります。

会員の区分と個人会員の権利・会費

		A 会員	B 会員	C 会員
配布 *	Ecological Research + 生態誌	○	○	
	保全誌		○	○
投稿 **	生態誌	○	○	
	保全誌	○	○	○
大会発表	全セッション	○	○	
	自由集会	○	○	○
総会・委員 (選挙・被選挙権)		○	○	○
年会費	正会員	11,000	13,000	5,000
	学生会員	8,000	10,000	2,500
	団体会員	20,000	22,000	14,000

*Ecological Research および生態誌については2007年度より冊子を必要としない会員への割引（ER 900円、生態誌 600円）を開始しました。すでに会員の方が今後申請される場合は2008年度以降の適用となります。新たに入会される方は入会時に申請があれば入会年度より適用されます。

**Ecological Research への投稿権利は従来通り会員に限定しません。

地区会費（正・学生会員のみ）

北海道地区：200円 東北地区：800円 関東地区：600円 中部地区：0円
近畿地区：400円 中国・四国地区：400円 九州地区：700円

問い合わせ先：日本生態学会事務局

〒603-8148 京都市北区小山西花池町 1-8

Tel&Fax 075-384-0250 E-mail kaiin@mail.esj.ne.jp